

3R瓦版（5月号）



© 2013 フジコ イトウ All Rights Reserved.

水を通した環境教育について

◆「水」の教室

先日、子供たちに「水」について学ぶ教室で講師をさせていただきました。川原にて災害時等にも役立つペットボトルを使った泥水のろ過装置を作ってみました。

イラストを使い、ペットボトルに濾材として何を詰めたらよいかという見本を使い説明したのち、ペットボトルの底をカッターで切り、子供たち自らでろ過容器を準備してもらいました。

その容器に川原にあるいろいろなものを自分たちで考えて濾材を詰めてもらいました。川原にある濾材として使えそうなものといえば、小石・砂・葉っぱなどですが、子供たちには各自詰める物・詰める順番をそれぞれ考えて詰めているようでした。

そうして出来上がった「ろ過装置」に汚水を注いでどの程度ろ過が出来るか「性能」を試しましたが、全員ほとんど変わらないかさらに汚れが増したという結果でした。さらに汚れが増したのは細かい砂を入れたためであることを説明し、子供たちは水をろ過するということの難しさを学べたのではないかと思います。



◆ごみはなぜ「ごみ」なのか

「水」の教室の後半に川原のごみ拾いを子供たちと一緒に行いました。ごみ拾いを終えて集合した子どもたち「ごみはなぜ拾ったり掃除したりしなければならないのですか?」と質問しました。回答は、

・汚いから・環境に悪いから・川や海を汚すから

どれもいい答えですが最後に私が一番導きたかった答えが出ました。

・自然に戻らないから

「ごみ」も自然の力によって速やかに分解されればごみでなくなります。自然の力で分解されるということを「生分解性」といい、いろんな製品が開発されています。子供たちには釣り糸、クリアホルダ、BB弾の実物を見せて紹介しましたが、他にも機械用のグリス・プランター・ごみ袋などネット検索すればいろんな製品が販売されています。もちろんこのような製品を作るのにもエネルギーを使っているでしょうから環境負荷ゼロな製品ではないにしろ、子供たちが大きくなって自分でいろんな製品を購入するときに環境負荷が少しでも少ない製品を自ら考えて選んで貰えたらと思います。

環境教育インストラクター 川口朋久（川口水環境）

RepairFactory (有)本杉工機

京都府久世郡久御山町田井新荒見 220 番地

tel : 0774-46-4654